

プログラム

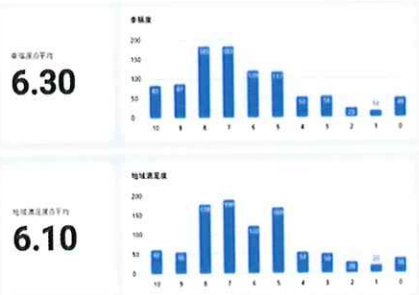
- 13:30 開会・挨拶 / 理事長 今井 久
- 13:35 "シン"やまなし未来共創プロジェクト / 調査研究部長 佐藤 文昭
- 14:15 家庭の事情に左右されない若者支援の在り方研究 / 主任研究員 渡邊 たま緒
- 14:55 〈休憩〉
- 15:05 住民主体の山梨県版「地域循環共生圏」形成に向けた調査研究 / 主任研究員 宇佐美 淳
- 15:45 障がい者のニーズに関する調査研究 / 主任研究員(3月末まで) 山本 陽介
- 16:25 令和7年度の自主研究について
- 16:30 閉会 / 専務理事 村田 俊也

※発表30分、質疑10分 計40分

発表1 "シン"やまなし未来共創プロジェクト

当財団が目指す「幸福な地域社会の実現」に向けて、WEBアンケート調査や統計データに基づいて、県民が抱く幸福度や地域への満足度、県民の社会生活などを把握するとともに、3つのテーマから地域課題を深掘りし、新たな問題点について明らかにしました。

その成果を、2月のフォーラムで発表するとともに、その内容をとりまとめた「やまなし県民白書2024年度版」を作成しました。



発表2 家庭の事情に左右されない若者支援の在り方研究

高校卒業後の進路が将来の夢に直結することを踏まえ、若者が家庭環境により進学を断念することのないよう、高校生を対象に必要な支援のあり方を探る基礎研究を行いました。

その結果、高校生への進学支援より、自己肯定感の低下を防ぐ支援が急務であり、また、さらに早い段階での支援が必要と認められました。



発表3 住民主体の山梨県版「地域循環共生圏」形成に向けた調査研究

山梨県の豊かな自然環境の保全を始め、国が目指すカーボンニュートラルのための気候変動対策は喫緊の課題であり、具体的なアクションを起こすための“気候コミュニティ会議”の創設を目指したセミナーを開催しました。そこでの活動や参加者及び大学生へのアンケート調査結果から、住民自身の意識の変容が未だ不十分な状況であることが分かりました。

環境を中心に他分野との連携による住民意識の向上につなげるとともに、住民主体の新たな環境社会としての循環型共生社会の創造を目指す必要性が明らかとなりました。



発表4 障がい者のニーズに関する調査研究

「障がい者が日常生活を送るうえで、何に困っていて、何を望んでいるのか」について、本研究では視覚障がい者に焦点を当てて、統計データ分析や関係者へのヒアリング、グループディスカッション等を通じて調査研究を行いました。

当事者の生の声や統計データからみえてきた、「私たち一人ひとりはどう考え、どう行動すればいいのか」について、報告書にまとめ、公表します。

